



日本ベンジャミン人間性英才学校
Japan Benjamin School for Character Education

ベンジャミン

通信

2018/6/1発行

第47号

2期生
成長ストーリー

日本ベンジャミン人間性英才学校からグッドニュースや生徒たちの成長をお届けします

夢の実現のために 創造した進路

2期生
成長ストーリー



日本ベンジャミン人間性英才学校
2期生 小川 菜桜さん

この春、2期アドバンス過程を卒業した小川菜桜さんは、一般の高校にも通いながら2年間ベンジャミン学校で活動してきました。そんな彼女が夢を実現するための一歩に選んだのは、立命館大学 食マネジメント学部への進学でした。



入学する前の小川さんは夢があいまいで、コッコツと勉強するのが苦手でした。人の役に立つことや笑顔にすることが好きだったので、ベンジャミンフェスティバル(※1)で手作りお菓子を販売したり、ワークショップでみんなが集まる時や、誕生日の同期生にプレゼントしたりして喜んでもらっていました。その時はそれが自分の進路や仕事に結びつくとは思っていませんでした。



そんな小川さんの意識を変えたのはベンジャミン 12段(※2)でした。最初は多くの人が思うように、自分にできるだろうかと自信がありませんでした。

しかし日々のBOS授業やワークショップで少しずつ練習し、1段階ずつできるようになりました。この過程で体感したのが「選択すれば成し遂げられる(※3)」ということ。それ以来、する前からできないと決めつけているのではなく、チャレンジしてみることが多くなったそうです。



このことは勉強に対する姿勢にも影響を与えました。まずは体が慣れるようにコッコツと反復勉強をしました。夏休みには無奈だと思われる量の勉強計画を立てましたが、これも見事にこなすことができ、計画したことを現実にする力が身につけてきました。

その結果、周りが進路を決めていく中でも、妥協せずに本当にしたいことができる環境を探し、ついに見つけたのがこの食マネジメント学部でした。あまりにも自分の希望とピッチリだったので「自分が作ったのでは」とまで思ったそうです！奇しくもこの春に新設されたこの学部で経済学・経営学・専門的な調理の知識を学び、将来

は父親の夢でもあるカフェの経営を一緒にして人々を笑顔にするのが小川さんの夢です。

最近よく聞かれる「好きなことで生きていく」を実現するためには、様々な障害をひとつひとつ乗り越えながら進んでいかななくてはなりません。日本ベンジャミン人間性英才学校では、生徒が自分の道を見つけ、その道を最後まで進んでいく知恵と力が育まれるようにサポートしています。

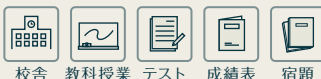
※1: 学園祭として行っているイベント

※2: 腕立て伏せから逆立ちで歩くまでの過程を12段階で構成したトレーニングです。体力はもちろん、自分に対する誠実さや責任感、忍耐力が養われます。

※3: 脳を活用するBOS (Brain Operating System)の5つの法則のひとつ

ベンジャミン人間性英才学校は

ブレインワークショップ(メンター特別講義、ベンジャミンリーダーシップ教育、地球市民教育など)、ベンジャミンプロジェクト(世界に役立つ独自のテーマを決めてメンターのサポートを受けながら1年間生徒が自ら進行していくプロジェクト)、メンタリング(様々な分野のメンターから個別にアドバイスをもらう)などのプログラムで、自己啓発、自己省察、進路体験活動などをしながら、自分で人生を作っていく力を養います。



校舎 教科授業 テスト 成績表 宿題